

魅力満載!! 三江線

江の川沿いの風情



《10》

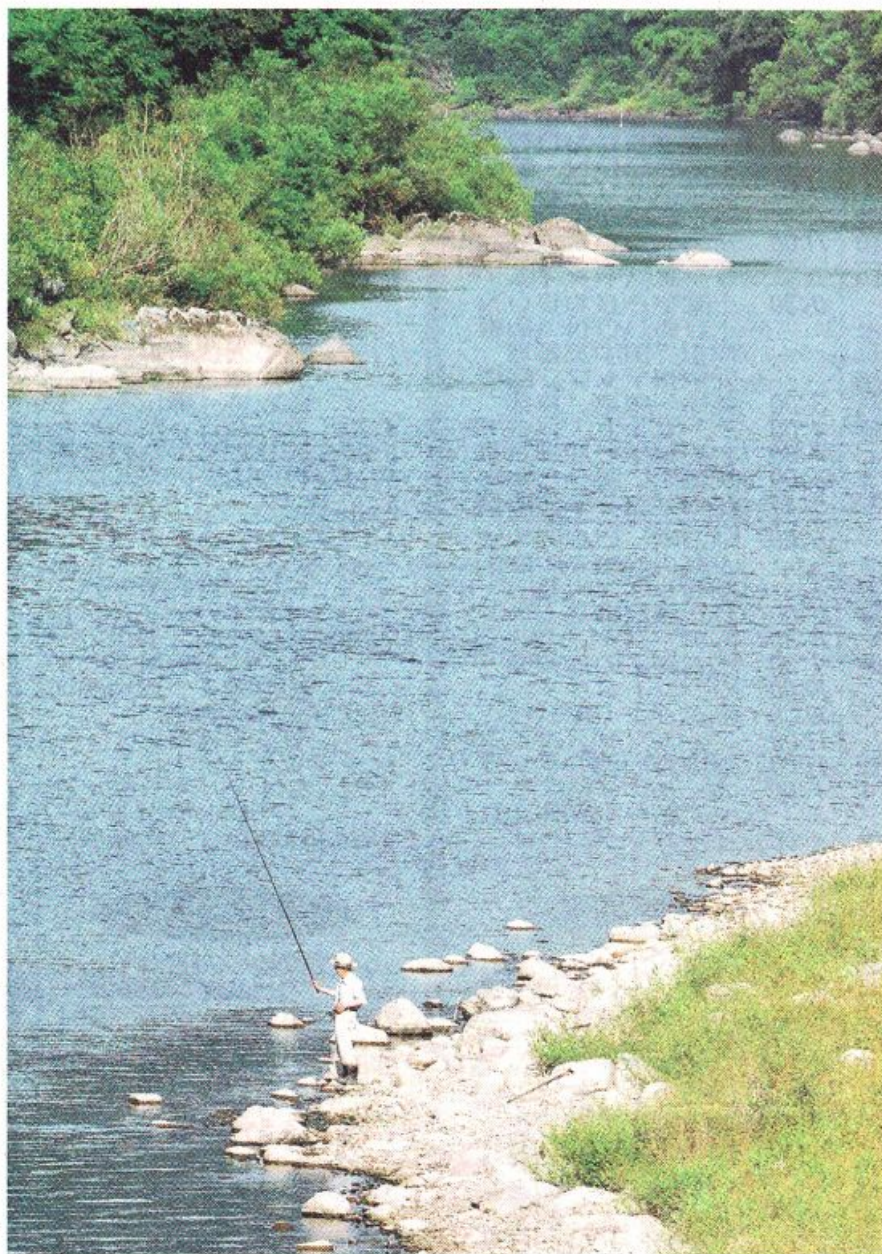
「暴れん坊」の印象が強い江の川。特に私が暮らす美郷町都賀本郷には「荷越(にこせ)」という瀬があり、瀬音も豪快に、水を下流へと押し流している。

その昔、貨物船が行き来していたころ、荷越は水運の難所だったらしく、船が幾度となく転覆したという話を老人が話しているのをよく聞く。名前の由来は「荷が越せん」だともいわれる。今でこそ船といえば、カヌーが下るくらいだが、そのカヌーにとっても難所であることは違い

なく静かに水を押し進めるこの瀬が似ていたのだ。今でもその印象は変わらない。

父と寒バエ釣りに興じたのもここだ。紅葉の山々を眺めながら、晩秋の味覚を、母が困るほど釣り上げた。

においがあるとされる



川魚だが、甘露煮や南蛮漬けにすると全く気にならない。寒バエは脂がのって、殊のほか美味だが、最近では食す人も少ないのではないだろうか。

三江線からほんの一瞬、川魚だが、甘露煮や南蛮漬けにすると全く気にならない。寒バエは脂がのって、殊のほか美味だが、最近では食す人も少ないのではないだろうか。

三江線からほんの一瞬、川魚だが、甘露煮や南蛮漬けにすると全く気にならない。寒バエは脂がのって、殊のほか美味だが、最近では食す人も少ないのではないだろうか。

三江線からほんの一瞬、川魚だが、甘露煮や南蛮漬けにすると全く気にならない。寒バエは脂がのって、殊のほか美味だが、最近では食す人も少ないのではないだろうか。

思う。

|| 隔週土曜日掲載 ||

荷越、音無の瀬

「動」と「静」対照的な姿

川面を揺らす静かに流れる「音無の瀬」